

タブレットとデジタル教材を授業で活用しよう!



学習者用 デジタル 教材 サポートブック

3つの使い方と展開例



学習者用デジタル教材の授業での活用

「学習者用デジタル教材」え？ デジタル「教科書」ではないの？と思われた方もいらっしゃるかもしれませんが。子どもたちが毎日ランドセルに入れて登校し、授業で使い、持ち帰って家でも開く教科書やノートは紙でできています。これら全てがタブレット端末などのデジタル端末に置き換わるのでしょうか？ タブレット端末を導入する学校や教育委員会は急速に増えています。それでも、多くの自治体では、コンピュータ室の更新にあわせて40台、コンピュータ室と別に10~20台の端末を導入といった整備にとどまっているのが実情です。持ち帰ることも難しいですし、子どもたち一人ひとりに1台、いつでも使える環境はまだ限られています。教科書やノートのように、常に子どもの手元にあり、いつでも使える環境ではないということです。無線LANなどのネットワーク環境の整備や、機器の設定やメンテナンスなど、課題は山積しています。導入されたタブレット端末が1人1台、常に使えるのではないなら、どんな時に使いますか？ 紙の教科書やノートでできることを「なぞる」ような活用方法では、わざわざタブレットを教室に持ち込み、子どもたちに配る甲斐がありません。むしろタブレットならではの、デジタルの良さが際立つ場面で使うことになるでしょう。「学習者用デジタル教材」には、そんなデジタルの良さが際立ち、かつ教科書紙面と関連性の高い教材が収録されています。代表的な使い方を3種類、ご紹介します。

東北学院大学
准教授
稲垣 忠



学習者用デジタル教材 3つの使い方

- 1 練習する
- 2 試行錯誤する
- 3 調べる

1 練習する

教科書の練習問題、計算ドリル、漢字ドリル、音読では、繰り返し学習することで確実な知識や技能の習得を目指します。これらの教材がデジタルになるメリットは、自動で採点してくれる、紙面では取まらない量の問題に取り組めたり、一人ひとりのニーズや進度に合った教材を提供したり、学習者が自分で問題を選んだりできることです。「学習者用デジタル教材」は、学習履歴を保存するまでの機能はありませんが、手軽に取り組めるドリルが豊富に収録されています。ただし、この使い方は1人1台の環境が必要です。従来のコンピュータ室も活用しながら、特に個別に練習させたい場面で活用するとよいでしょう。

国語

言葉をならびかえよう
国語辞典の見出し語の順のルールを理解するためのコンテンツです。

国語

「は」「へ」「を」を使って文を書こう
基本の助詞「は」「へ」「を」の使い分けを身に着けるためのコンテンツです。

書写

なんの かたちから できたのかな
漢字の成り立ちをクイズ形式で楽しく学べます。自動採点を行います。

理科

地層のようすから考えてみよう
地層のようすを読み解いて、正しい答えを導き出すコンテンツです。自動採点を行います。

理科

温度計の目もりを読んでみよう
問題をランダムに出題し、自動採点を行うコンテンツです。

書写

はらい「大」
漢字による「左はらい」の方向の違いが学べるコンテンツです。自動採点を行います。

2 試行錯誤する

算数

時こくのおよみ方
時刻のおよみ方の練習ができる時計です。文字盤の表示の切り替えなどができます。

算数

100づくり暗算かるた
あわせて100になる数を選ぶかるたです。楽しみながら暗算の技能を鍛えます。

算数

フラッシュカード
九九など簡単な計算について練習できるフラッシュカード教材です。

家庭

体内での栄養素のおもな働き
栄養素と体内でのおもな働きの関係を線で結んで確認することができます。

家庭

栄養素のおもな働きによる食品のグループ分け
栄養素のおもな働きによって、食品をグループ分けすることができます。

デジタル教材の特徴の一つである、図形やグラフを自在に動かすことができる点に注目してみましょう。指導者用デジタル教科書でこうした教材を電子黒板で提示する場合と何が違うでしょうか。理科で星の動きや、算数の立体図形の回転など、動かすことのできる教材は教師が操作しても十分にインパクトはありますが、子どもたちが自分で操作することで、思い描いた動きと画面上の動作とがつながります。何度も試行錯誤しながら動作を確かめるシミュレーション型の教材は、学習者が自分で操作することで理解が深まります。環境としては1人1台あった方が良いでしょう。2~3人に1台でも、順番に操作したり、教え合いながら一緒に動かしたり、操作と説明で役割分担して発表したりすることで、1人1台の環境とはまた違った効果を得ることが出来ます。シミュレーション教材は、必ずしもすべての教科や単元で有効なわけではありませんから、特に効果的な教材を選んでおいて、端末の使用スケジュールを調整してもよいでしょう。

国語

人物の気持ちを想像しよう
登場人物の様子や気持ちを想像して書き込むコンテンツです。気持ちの変化をとらえることで、音読の工夫にも役立ちます。

国語

記事と写真の関係を読み取ろう
新聞のリード文や写真・見出しを入れ替えてみることで、記事との関係を考えることができるコンテンツです。

書写

手書き文字で伝えよう 模造紙
文字を押すと文字の色が変わり、見出しや本文に適した色の工夫が実感できます。

理科

てこのきまりを調べよう
実験用てこにおもりをつるして試すことができるシミュレーションコンテンツです。

理科

かん電池2このつなぎ方を考えてみよう
自由に配線を描きこんで、回路を考え、形にするコンテンツです。

生活

たんけんマップ
道路や川、鉄道などを描くことができるマップツールです。お店や施設のスタンプや、付箋などで自分のたんけんマップを作成することができます。

算数

平行四辺形の面積の求め方
図形を切ったり、指導したり、回転したりして、面積のもとめ方を考えるコンテンツです。

算数

三角形を調べよう
円周上の点を結んで色々な三角形をつくり、作った三角形を分類します。

家庭

大きさの考え方
布製品を製作するときに、大きさの考え方を学ぶためのシミュレーションです。入れる物の大きさやゆわりの数値を変更すると、イラストの形が変化します。

3 調べる

映像を視聴できるのもデジタル教材の特徴です。指導者用デジタル教科書では、授業の導入やまとめで教師が選んで見せていました。「学習者用デジタル教材」なら、子どもたちが自分で見たい映像を選んだり、止めたいところで止めたり、繰り返し視聴したりすることができます。書写や

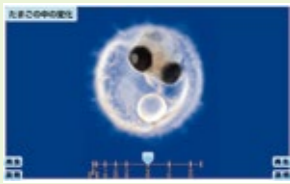
家庭科など実技に関する映像は、実際に自分でやってみて、わからなくなったときに再度、必要なところを見ることでポイントをつかむことができます。社会科や理科では多様な映像クリップが収録されています。グループごとに種類のちがう映像を見て、分かったことを比べたり、つながりを考えることで学習内容全体の理解が深まります。調べる際の資料は映像クリップに限定せずに、教科書や資料集、あるいは図書やWebサイトも組み合わせると、情報の範囲はさらに広がります。多様・大量の情報を整理し、自分の考えをまとめる情報活用能力の育成にもつながります。こうした実践はグループ1台の端末でも実践可能です。なお、映像の場合、音声流れるため、隣のグループと机を離したり、音量を調整した方が良いでしょう。

書写



動画「羊(手元)」
種類豊富な実演映像を、繰り返し見ることができます。

理科



たまごの中の変化
メダカの卵がかえるまでのようすを詳細に見ることのできるコンテンツです。

社会



しせつを見学する
消防署の見学の際の注意事項を確認できる、事前学習に適した映像コンテンツです。

書写



動画「筆のかたづけ方」
道具の並べ方・かたづけ方、筆の持ち方など、基礎・基本の映像も収録しています。

理科



ガラス器具のあらい方
基礎技能である、ガラス器具のあらい方を示した映像コンテンツです。

社会



主な輸入品の輸入相手国
全体を概観するだけでなく、任意の品目に着目して表示することもできるコンテンツです。

生活



むしのかくれんぼ
ゴマダラチョウの幼虫、コノハチョウ、ナナフシなどの擬態で身を守る昆虫の様子を動画で紹介しています。

算数



コンパスを使った円のかき方
コンパスを使った円のかき方を映像で確認できます。

家庭



基礎技能の映像資料
学習者の手元でも、映像で食生活や衣生活の基礎技能を確認できます。

生活



ポケットずかん
四季の草花や昆虫など、身近な生きものを収録した図鑑です。それぞれの写真は拡大して見ることができ、関連資料も収録しています。



練習する、試行錯誤する、調べるの3つの使い方をご紹介しました。授業の流れに位置付けてみると、練習用のドリルは授業の最後の習熟場面や、導入段階で既習事項を確認する際に活用できます。シミュレーション教材や映像は、展開で子どもたちが活動する場面で役立ちます。指導者用デジタル教科書は、意識付けや情報提示のための道具として「みんなで同じものを見る」場面で役立ちますが、「学習者用デジタル教材」は、「自分あるいはグループごとに違うものを見る」ために使います。ぜひ、デジタル教科書・教材を皆さんの授業づくりに役立ててみてください。

学習者用デジタル教材

制作者が提案する授業での活用方法

○ 黒板や紙のノートと併用する

タブレット端末を使った授業という、例えば問題を教師の端末から児童の端末に送ったり、電子ノートにかきこんだ内容を共有したり、といった授業を思い浮かべるかもしれません。しかし、学習の履歴が端末の中にしか残らなければ、好きな時に学習を振り返ることができません。タブレットや電子黒板上での作業にとどまらず、作業や考察の結果は必ず先生が黒板に板書し、生徒は紙のノートにまとめることが大切です。



○ 「普通の」授業の中で使う

タブレット端末や「学習者用デジタル教材」が導入されたからといって、授業の展開を根本的に変える必要はありません。1時間ずっとタブレットを使った「特別な」授業をする必要はありません。今まで、教科書の内容を補足したり、個別に作業をさせたりしたい時に、紙のワークシートを配布していたように、「普通の」授業の中で、効果的な部分にだけ使うというのが基本です。



○ 目的に応じて使い方を考える

使い慣れないうちは、とにかく使ってみることが大切です。慣れてきたら、使い方を工夫してみてください。同じ教材でも1人で使う場合と2人1組で使う場合、グループで使う場合では効果が違います。同じ映像資料を活用しても、1人で視聴すれば個別学習に、グループで視聴しながら話し合えば協働学習になります。このように、場面や目的に応じて使い方を工夫することで、可能性は無限に広がります。



●●● 次のページからは、具体的な指導案(算数)の形で、授業での使い方の例を見ていきましょう。



目標

辺や頂点の数に注目して図形を分類する活動を通して、
三角形、四角形の意味や性質を理解する。

指導のポイント

本時で重視したいのは、図形を実際に操作する活動である。パズルを使って形を構成する過程では、回転や移動など、具体的な操作活動を通して、図形感覚を豊かにしていきたい。また、パズルの形に着目して、それらの特徴や共通点などに注意して調べていくことで、図形を数学的に考察していくことにつなげていきたい。

ICT 機器

- タブレットPC：1人1台
- プロジェクタ（大型テレビ）
- 電子黒板

学習者用デジタル教材

- 色紙パズル（2年）

ICT 活用の意図

- 何度も繰り返せるので、試行錯誤に向いている。
- 必要に応じてヒントを活用することで、個人差に応じた活動ができる。
- 電子黒板・タブレットPCを操作しながら発表することで、分かりやすく説明することができる。
- パズルを落としたり、なくしたりすることがなく、手先の不器用な児童にとっても操作しやすい。
- 裏返すことができないので、児童の戸惑いが少ない。

学習段階・形態	活動内容 (◎)・留意点 (*)	支援 (○)・評価	板書例	ノート (◆)・学習者用デジタル教材 (◇)
1. 問題を把握する。 (問題の把握：5分) 一斉	◎パズルを使って、いろいろな形（ロケット、魚、家、船など）をつくる学習をすることを知らせる。	○パズルをした経験を想記させ、興味を持たせる。	パズルをつかって、いろいろな形をつくろう。	◆本時の問題をノートにかく。
2. パズルを使った形作りに取り組み。 (自力解決：15分) 個別	◎学習者用デジタル教材を使って、例示と同じ形を構成する。 *1つできたら、次の形を考える。 *パズルは裏返さないことを伝えておく。(学習者用デジタル教材は裏返すことができないようになっている。) ◎4つの形ができたら、各自、自由に形を作る。	○うまく操作ができない児童には、タブレットPCやペンの使い方を個別に支援する。 ○例示の形が構成できない児童には、「ヒント」を使うように助言する。(補助線が提示される) 関いろいろな形を作ろうとしている。(タブレットPC)	パズルをつかって、いろいろな形をつくろう。  (スクリーン)	◇例示されている形を作る  ◇自由に形を作る
3. 自分が作った形を発表する。 (比較検討：10分) 協働	◎それぞれの考えた形を見せ合う。 *タブレットPCの画面を見せながら、気をつけたことや工夫したことを説明する。 *全体の形や、各パーツの特徴について言わせるようにする。 ◎友達の作った形を見て、気づいたことを発表する。	○発表には、「さんかく」や「しかく」といった発言（つぶやき）をとりあげる。	パズルをつかって、いろいろな形をつくろう。 	◆自分の作った形をワークシートなどに写し、ノートに貼っておく。
4. 本時の問題をとらえる。 (問題の把握：7分) 一斉	◎パズルの形について調べる。 *パズルの形について、気づいたことを発表する。 ◎「さんかく」や「しかく」の形について調べることを知る。	○指導者用デジタル教科書で、パズルの形を提示する。 ○教科書は閉じて、考えさせる。	パズルをつかって、いろいろな形をつくろう。   8つのパズルを、2つのなかまに分けよう。	◇例示されている形を作る
5. 8つの形を仲間分けする。 (自力解決：8分) 個別	◎仲間分けの方法を考えて、学習者用デジタル教材を使って仲間分けをする。 ◎次時の予告をする。	○仲間分けができない児童には、「直線の数数を数えてみよう（指でなぞってみよう）」「形のかどの数を数えてみよう」と声をかける。 関図形の辺や頂点の数に着目して、図形を分類しようとしている。 ○次時は、自分の考えを発表する時間となる。画面を保存しておくことが難しければ、続けて実施する。	パズルをつかって、いろいろな形をつくろう。   8つのパズルを、2つのなかまに分けよう。	◇パズルを仲間分けする。 

目標 既習の長方形や正方形の面積を求める学習を活用して、長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考え、面積を求めることができる。

指導のポイント
 本時では、既習事項を生かして複合図形の面積の求め方を考える。まずは、問題を提示する際に、既習事項を想起させ、どのようなことが使えるか考えさせたい。その際、自分の考えを友達が見ても分かるように、図、式、言葉を用いて表現する。表現したものを比較検討する中で、どの考えも長方形や正方形を基にしているという点が共通していることが見えてくる。また、友達の図や式を見て、その考えを読み取る活動を取り入れることで、思考力や表現力を育てていきたい。

ICT 機器
 ●タブレットPC：1人1台
 ●プロジェクタ（大型テレビ）
 ●電子黒板

学習者用デジタル教材
 ●面積の求め方の工夫1（4年）

ICT活用の意図

- 図形を好きな位置で切って移動したり、回転したり、コピーしたりといった操作が紙のワークシートに比べて簡単に行える。
- 操作を何度も繰り返せるので、試行錯誤に向いており、多様な考えが出やすい。
- 移動したり、回転したりして求める方法は、タブレットPCや電子黒板で操作しながら発表することで、分かりやすく説明することができる。

学習段階・形態	活動内容 (◎)・留意点 (*)	支援 (○)・評価	板書例	ノート (◆)・学習者用デジタル教材 (◇)
1. 既習を想起しながら問題を把握する。 (問題の把握：5分) 一斉	◎問題文を読み、本時の学習内容を把握する。 ◎使えそうな既習事項を出し合う。 *1人ひとりが解決の見通しを持ち、意欲を高められるように、全体で意見を出し合う。	○提示する際に、付箋機能を使って、少しずつ見せていくことで、既習の長方形を想起させる。 ○既習事項が使えそうだとすることに気づかせるために、あらかじめ長方形や正方形の求め方をまとめて掲示しておく。	図のような面積の求め方を考えましょう。 	◆本時の問題をノートにかく。
2. 面積を求める方法を各自で考える。 (自力解決：15分) 個別	◎学習者用デジタル教材を使って、面積の求め方を考える。 *1つの方法で面積を求めることができれば、別の方法も考える。 ◎学習者用デジタル教材を使って考えた面積の求め方を、友達が見ても分かるように、図、式、言葉を使ってワークシートにかく。	○1つの方法で面積を求めることができれば、別の方法も考えさせる。 ○デジタル教材とは別に紙のワークシート（ノート添付用）も配布する 関既習事項を生かし、いろいろな方法で面積を求めようとしている。 (タブレットPC, ワークシート)	図のような面積の求め方を考えましょう。 	◇学習者用デジタル教材を使って、面積の求め方を考える。 ◆自分の考えをワークシートに記録する。
3. お互いの考えを発表し合い、検討する。 (比較検討：20分) グループ：10分 全体：10分 協働	◎グループで、それぞれの考え方を話し合う。 *タブレットPCの画面を見せながら、自分の考えを説明する。 ◎クラス全体で発表し、考え方を比較する。 *タブレットPCの画面をプロジェクタに投影し、それぞれの考えを全体の前で発表する。 *図だけでなく、式ではどのように表せるか説明する。 *同じ考えや、付け足しがあけば、発表する。 ◎それぞれの考えの共通点を見つける。	考求積方法を既習である長方形や正方形に分割するなどして考え、図や式などを用いて説明している。(発表・ワークシート・タブレットPC) ○グループの人数は、全員が発表できるように、3～4名とする。 ○発表された考えを黒板に掲示し、比較ができるようにする。	図のような面積の求め方を考えましょう。 2つに分ける かけている部分をひく 分けてたす 2倍する (スクリーン)	◆グループや全体での発表を聞いて、よいと思った友達の考えはワークシートに記録しておく。
4. 話し合ったことをまとめる。 (まとめ：5分) 一斉	◎複合図形の面積について、まとめを書く。 *児童の言葉で、ノートにまとめる。 ◎適用問題に取り組む。	○出された考えを確認し、共通点を考えさせる。 関どの考えも既習の長方形や正方形の形を基にして求めていることに気づき、既習を活用するよさを認めている。(発言・ノート)	図のような面積の求め方を考えましょう。 2つに分ける かけている部分をひく 分けてたす 2倍する 長方形や正方形の形をもとにして考えれば、面積を求めることができる。	◆本時の学習をノートにまとめる。

目標

身の回りにあるものの形について、
その概形をとらえることで面積を求められることを理解する。

指導のポイント

本時では、身の回りのものの形を概形としてとらえ、基本図形とみなしておよその面積を求める方法を考えさせる。正確な値を求めることが目的ではないので、いたずらに桁数を多く求めても無意味なことを指導し、基本図形とみなすことによる（簡単な計算でおよその面積を見つめることができること）に気づかせるようにする。

ICT 機器

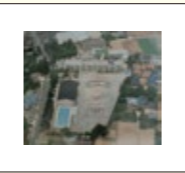


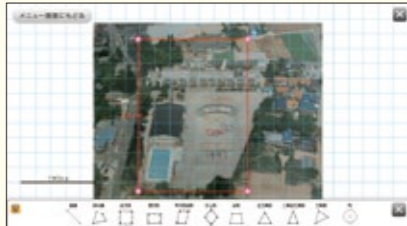







- タブレットPC：1人1台
- 電子黒板（タブレットPCの操作でも可）

学習者用デジタル教材

- およその面積（6年）
- 学校（自校）の航空写真データ
（※写真の写り方によっては誤差が大きくなる場合があるので注意）

ICT活用の意図

- 身近な「学校」を教材化できるため、興味を持たせやすく、量感をイメージしやすい。
- 基本図形を書き込むと、実際の辺の長さが表示されるため、作図や縮尺の計算の手間が省け、形を見とる活動に集中できる。
- なんども繰り返せるので、試行錯誤に向いており、多様な考えが出やすい。

学習段階・形態	活動内容 (◎)・留意点 (*)	支援 (○)・評価	板書例	ノート (◆)・学習者用デジタル教材 (◇)
1. 自分たちの学校はどれくらい の面積なのかを考える。 (問題の把握：5分) 一斉	◎教師が提示した学校の航空写真を見て、学校 のおよその面積を求めるという課題を把握す る。 *前時の、東京ドームなどの面積を求めた学習 をふり返り、正確な面積ではなく、およその面 積で十分であることを確認する。	○周年行事などで撮影した学校の航空写真などを 拡大印刷したものを掲示する。	学校のおよその面積の求め方を考えましょう。 	◆本時の問題をノートにかく。
2. 学校のおよその面積の求め 方を考え、面積を求める。 (自力解決：20分) 個別	◎学習者用デジタル教材を使って、学校のおよ その面積の求め方を考える。 *学校の写真に基本図形を書き込みながら、概 形をとらえられるようにする。 ◎学習者用デジタル教材に書き込んだ、学校の 概形をとらえた基本図形のおよその面積を計 算して求める。 *紙のワークシート（ノート添付用）も配布し、 考えた結果を記録させるようにする。	○学習者用デジタル教材で使う画像を用意してお く。 ○電子黒板を使い、画像ファイルをアップロードし てワークシートを作成する方法と、プールを使 って実際の長さを入力する方法を演示しながら 説明する。 関学校の形の概形をとらえて、面積を求めようと している。（タブレットPC、観察）	学校のおよその面積の求め方を考えましょう。   (スクリーン)	◇学校の航空写真を取り込み、概形とみなす基本図形 を書き込み、およその面積を求める。  ◆自分の考えをワークシートに記録する。
3. およその面積の求め方を発 表し合う (比較検討：15分) 協働	◎タブレットPCの画面を転送し、学校のおよそ の面積の求め方について、それぞれの考えを 発表し合う。 *答えだけでなく、どんな形とみたか、どこの長 さを使ったかについて、画面を使って説明させ る。 *出た意見は、予め用意しておいた写真を掲示 し、考え方の見直しができるようにする。 *求め方が異なっても、求めた面積が近い ことを確認する。	考身の回りにあるものの形について、その概形を とらえることで、およその面積を工夫して求め ることを考え、説明している。（発表・ワーク シート） ○基本図形とみなすことにより、およその面積を 求められるというよさに気づかせる。	学校のおよその面積の求め方を考えましょう。    台形で求める  長方形で求める	◆友達の考えで、よいと思った考えはワークシートに 記録しておく。
4. およその面積の求め方につ いてまとめる。 (まとめ：5分) 一斉	◎本時の学習をまとめる *児童の言葉で、ノートにまとめる。 ◎次時の予告をする。	○次時は、いろいろな形のおよその体積を求める ことを知らせる。	学校のおよその面積の求め方を考えましょう。  およその面積は、面積を求め る公式がわかっている図形と みると求めることができる。  台形で求める  長方形で求める	◆本時の学習をノートにまとめる。

教科	学年	DVD版	セット価格	Web配信	Web配信指導者用 +学習者用
		指導者用		指導者用	学習者用デジタル教材
新編 新しい国語 指導者用	1年～6年	各 76,000円	370,000円	各学年 20,000円	
新編 新しい国語 指導者用+学習者用デジタル教材	1年～6年	各 96,000円	470,000円		各学年 40,000円
新編 新しい国語+新編 新しい書写 指導者用	1年～6年	各 86,000円	420,000円	各学年 25,000円	
新編 新しい国語+新編 新しい書写 指導者用+学習者用デジタル教材	1年～6年	各 106,000円	520,000円		各学年 65,000円
新編 新しい書写 指導者用	1年～6年	各 20,000円	100,000円	各学年 5,000円	
新編 新しい書写 指導者用+学習者用デジタル教材	1年～6年	各 40,000円	200,000円		各学年 25,000円
新編 新しい社会 指導者用	3年～6年	各 76,000円	250,000円	各学年 20,000円	
新編 新しい社会 指導者用+学習者用デジタル教材	3年～6年	各 96,000円	320,000円		各学年 40,000円
新編 新しい算数 指導者用	1年～6年	各 76,000円	370,000円	各学年 20,000円	
新編 新しい算数 指導者用+学習者用デジタル教材	1年～6年	各 96,000円	470,000円		各学年 40,000円
新編 新しい理科 指導者用	3年～6年	各 76,000円	250,000円	各学年 20,000円	
新編 新しい理科 指導者用+学習者用デジタル教材	3年～6年	各 96,000円	320,000円		各学年 40,000円
新編 新しい家庭 指導者用	5年～6年	76,000円		20,000円	
新編 新しい家庭 指導者用+学習者用デジタル教材	5年～6年	96,000円			40,000円
小学校生活 デジタル掛図 指導者用	1年～2年	40,000円		10,000円	
小学校生活 デジタル掛図 指導者用+学習者用デジタル教材	1年～2年	60,000円			30,000円
小学校社会 デジタル掛図 指導者用 Ver.4	3年～6年	各 76,000円	250,000円	各学年 20,000円	
小学校社会 デジタル掛図 指導者用 Ver.4+学習者用デジタル教材	3年～6年	各 96,000円	320,000円		各学年 40,000円
小学校理科 デジタル掛図 指導者用 Ver.4	3年～6年	各 76,000円	250,000円	各学年 20,000円	
小学校理科 デジタル掛図 指導者用 Ver.4+学習者用デジタル教材	3年～6年	各 96,000円	320,000円		各学年 40,000円

●学校内フリーライセンスについて

指導者用デジタル教科書は先生端末の台数について学校内フリーという内容です。Web配信指導者用デジタル教科書・掛図は1年単位のご利用になります。

●学習者用デジタル教材について

学習者用デジタル教材のみの購入も可能です。先生と学習者（児童）両方の端末で利用が可能です。学習者用デジタル教材は買い切りとなります。

教科書本文は収録されておりません。指導者用デジタル教科書とあわせて使用するデジタル教材が収録されています。

学校用サーバーからの運用を基本とします。コンテンツはサポートサイトからダウンロードします。購入時には、その時点での最新コンテンツが入ったDVDとダウンロード用パスワードが納品されます。

●学習者用デジタル教材を使用できる期間は、収録されているデータに対する教科書図書の発行期間を限度とします。

学習者用デジタル教材

	動作環境	提供方法	容量
動作に必要な環境など	OS: Windows, iOS, Android 対応予定 HTML5互換閲覧再生プログラムが導入されていること。 書き込み機能、画面転送・共有・保存・履歴管理は 学校に導入済みの教材配信システムの学習者用ソフトに依存します。 HTML5に対応した表示プログラムを利用します。 学校に導入済みの教材配信システムに登録して利用することを推奨します。	学校用サーバーからの運用を基本とします。 教科科学年毎にサンプルDVD-ROM サポートサイトよりダウンロード	教科・学年別巻 約700MB

学習者用デジタル教材 体験サイト <https://www.tokyo-shoseki.co.jp/ict/taiken/index.html>



デジタル教科書総合サポートサイト

<https://dtext.tokyo-shoseki.co.jp>

- ・学習者用デジタル教材のダウンロード
- ・EPUB3専用ビューア[Lentrance Reader]のダウンロード
- ・EPUB3対応学習者用データのダウンロード
- ・コンテンツの更新やアップデート情報のご案内

その他、デジタル教科書の操作説明やよくあるご質問とその回答、教材を使う際のヒントとなる特集記事などもご紹介しております。

東京書籍 ICT事業本部 東京 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel:03-5390-7577 Fax:03-5390-7582
大阪 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-4-10 大阪東書ビル Tel:06-6397-1351 Fax:06-6397-1357
ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

商品についてのお問い合わせは、ICT事業本部までお願いいたします。ユーザーサポート: ☎0120-29-3363 E-mail: soft@tokyo-shoseki.co.jp